

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価 結果・学校関係者評価

学校名	佐賀市立赤松小学校
-----	-----------

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

1 前年度 評価結果の概要	・職員・職員が校長が示す学校教育デザインを受けて、学校評価項目(成果指標・具体的取組)を考え、学校評価アンケート作成まで関わったことで、目標達成への意識が向上し、特に各部での取組が活性化した。 ・赤松小の特色でもあるCSが18年目を迎える。現状の課題解決を見据えながら、更に「地域と共にある学校作り」をすすめていきたい。 ・教員不足や長時間労働が深刻化している中、職員にとってやりがいのある仕事となるよう、さらに働きやすい職場作りに励む。	
------------------	---	--

2 学校教育目標	ふるさと赤松を大切にする 夢をもった子どもの育成 【めざす子どもの姿】 あいさつする子（徳） かんがえる子（知） まけずにがんばる子（体と心） つながる子（関わり）
----------	---

3 本年度の重点目標	〈今年のスローガン〉子ども真ん中 ①確かな学力の向上 ・子ども同士の協働を通じ、考えを広げ深める ・赤松トレジャー（聞き方名人あいうえお）の徹底 ②豊かな心の育成 ・ほめて伸ばす人づくり ・あいさつレベルアップ ③体力の向上 ・夢中になれる体育学習の工夫 ・外遊びの習慣化
------------	--

4 重点取組内容・成果指標	5 最終評価
---------------	--------

重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価	
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践 ・学習内容の定着に向けた分かりやすい授業の実践 ○金曜日の朝の時間にスキルタイムを設け、全校でスキル学習に取り組み。	○「めあてとまとめを対応した授業を意識している」と回答する教職員85%以上 ○スキル学習を週1回程度実施し、「分かるようになった」、「できるようになった」と感じる児童80%以上 ○「教師の発言3割、児童の活動(発言を含む)7割」を目標として取り組んでいる」と回答する教職員が90%以上	・分かりやすい授業にむけて、子どもの発言を活用したり、一緒に考えたして(めあて)を作る。(まとめ)は分かりやすい言葉を利用したり、協働で考えさせたりする。 ・4年生以上がスキルタイムでタブレットPCを週1回程度活用し、スキル学習に活用できる教材の活用と教員研修を定期的に実施し、活用できるようにする。	B	・「教師の発言3割、児童の活動(発言を含む)7割」の授業を実施したと回答した教師(※学級担任)は76%であり、80%には届かなかった。(内訳)「めあてはまる」「大得意ではまる」「55%」さらに割合を増やしていく必要がある。 ・スキルタイムを通して、基礎学習の定着を図った。しかし、スキルタイムの実施が全校で100%にならなかった、「分かるようになった」でできるようになったと感じる児童が中間評価とほとんど変わらなかった。より効果的なスキルタイムの在り方を考える必要がある。	A	・学力テストで平均を上回っている。先生方の全員研究授業は、授業力向上につながっていると思う。 ・若手の先生とベテランの先生の授業の差は大きな課題である。今後先生同士ノウハウを共有し、うまくクリアしたい。 ・「分かるようになった、できるようになった」と答える児童さんが増えたことは、先生方お一人お一人のたゆまぬ努力の積み重ねの結果だと感じる。ここまでは分かっていて、どこから分かったのかをを確認することが、「分かる」につながるのではないかと。
	○校内研究において、【粘り強く考え、挑戦し続ける児童の育成】を目指す。	○「学習や運動において、粘り強く取り組みことができた」と回答した児童85%以上	・算数科や体育科の授業において、児童が試行錯誤できるような場面を設ける。全員参加の授業の実現に向けて、対話的活動やICTを効果的に取り入れた授業実践を行う。	B	・授業の中で、あらかじめ考えたり、友達に相談したりして粘り強く取り組んでいると回答した児童は、全体の9割と目標指標を上回ることができた。今後も、校内研を中心し、児童が試行錯誤できるような手立てを講じることで、学習対象に主体的に関わり、粘り強く取り組むことができる児童の育成を図っていく。	B	・実践研究の取組の中で、他の先生の授業を参観する機会をたくさん持たれるように進められた点は、学校全体の指導力向上として評価できる。 ・中間評価にあつたようにICTの有効活用を高める努力が必要である。
	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○学校アンケートにて、道徳の授業で自分の考えを持ちたり、友達の交流の中で考えを深めたりすることができた児童が80%以上 ○あいさつポイント(返す、大きな声、自分から、笑顔、立ち止まって)のうち3つ以上でできる児童70%以上	・道徳の授業を要として、様々な場面(めくもりタイム、全校朝会、生活朝会など)にて、機会をとらえて考えさせたり、交流させたりして、自分の考えを持ちたり、考えを深めたりさせようとする。 ・あいさつのポイントを生活朝会などで示し、できるポイントから実践させられるようにする。	A	・教師アンケートで道徳の授業では、自分の考えを持ちたり、児同士で交流させたりした授業を展開することができたことは、肯定的な回答が90%であった。今後も学年で具体的な方法や交流のさせ方を共有し、自分の考えを深めさせたい。 ・児童アンケートあいさつレベルは、4月からアップしたものの質問に対して、肯定的な回答が80%であった。今後も、総務委員会を中心とした企画を実施し、あいさつレベルアップを目指す。	A	・青バでの子供見守り活動をしているが、赤松小の子供は元気であいさつも良いと思う。 ・朝の読み聞かせに付いた際、児童の方から元気よく挨拶を頂くのはとても気持ちが良いものである。子どもは大人をよく見ている。大人の方からも積極的に元気に挨拶を繰り返すことも大事だと思う。 ・校内でのあいさつは良好でも社会生活での習熟が必要である。
●心の教育	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○毎月1回心のアンケートをとり、児童の心の変化や悩みを早期発見、早期対応できるようにする。 ○いじめの早期発見・対応について、保護者アンケートで肯定的な回答90%以上	・子ども支援全体会や連絡会等で要支援の児童や、心の変化がある児童の情報を共有し、対応していく。	A	・いじめの早期発見・早期対応について、保護者アンケートでは、肯定的な回答が90%であった。今後も学年で具体的な方法や交流のさせ方を共有し、自分の考えを深めさせたい。 ・児童アンケートあいさつレベルは、4月からアップしたものの質問に対して、肯定的な回答が80%であった。今後も、総務委員会を中心とした企画を実施し、あいさつレベルアップを目指す。	A	・いじめの問題は時代が変わっても繰り返し起こる問題である。いじめ、スマホ、家庭環境等、様々な入り交り、複雑になって本質が見えづらくなっていると感じる。学校、地域、家庭が連携し子ども達の生命が脅かれない環境が構築されることを願う。 ・今後も早期発見、早期対応、早期発見に努めてほしい。
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれている」と回答した児童80%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」という肯定的な回答をした児童80%以上 ○ふるさと赤松のよさに気付いている児童70%以上	・めくもりタイムやハッピートーク等の活動を通して、自己肯定感を高め、意欲に繋げる。 ・地域の様々な人材を積極的に活用しキャリア教育の充実を図ったり、コミュニティの活動や地域行事の紹介をししたりする。	B	・「大人の人はあなたの良いところを認めてくれていると思う」という肯定的な回答をした児童が99%で、目標を達成することができた。今後もめくもりタイムやハッピートーク等の活動を行っている。 ・「将来の夢や目標をもっている」という肯定的に回答した児童も増えて、目標を達成している。今後も肯定的に回答した児童は高学年82%、低学年86%と目標を達成することができた。高学年が少し低い。今後も総合などでコミュニティの活用を広げていきたい。	B	・いろいろな人と知り合うこと、チャレンジすること、夢や目標をもち取り組むことにつながると思う。 ・赤松校区出身の七賢人が少ないのも、もっと七賢人の人となりを生かす取組が必要ではないか。
●健康・体づくり	①「運動習慣の改善や定着化」	①授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童65%以上	・スポーツチャレンジなどの啓発や全校で取り組む運動(マラソンやスポーツフesta)を推進し、児童が体を動かすことの楽しさを感じることができるようにする。	A	・1週間に7時間以上運動する児童の割合は、中間評価の時と比べて7%増加した。(81%)これは、スポーツチャレンジや全校マラソンに取り組むことで運動の楽しさに触れる機会が増えたからだと考えられる。今後もスポーツチャレンジの啓発や全校マラソンなどの取組を継続していきたい。	A	・国スポの開催、全障スポの観戦、授業公開とそれに伴う授業実践があり、また、研究発表優良校として表彰もされた。スポーツの関心、参加は高まっている。 ・公民館でも小学生が参加できる種目をもっと考えているので、小学生も参加してほしい。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則で定める時間外在校等時間の上限を遵守する。 ○会議、連絡会、研修等の時間は1時間以内、課後の時間を確保する。	・教職員の毎月の勤務時間を把握するとともに、超過勤務の長い教職員に声をかけ、タイムマネジメントを促す。 ・事前の内容把握と検討により、スムーズに会議の進行を行う。連絡掲示板を活用する。	A	・主任主任会により、学校運営の意思疎通、共通理解を促した。行事や業務の目的を明確にし業務の軽重化を図ることができ、効率化とともに質の向上にもつながっている。 ・退勤時刻やタイムマネジメントの先生方の意識が高まりつつある。後期は、長期休業等で課外日が少ないこともあったが、月の超過勤務時間が45時間以上の職員は、数人に留まった。	A	・先生方の大変な働きぶりや、現場の業務はなかなか減らない。現場は厳しい。この数年の教職員(特に新任の先生の精神的な疾患など)の離職の報道を見るたびに、志をもつて教職に就くにもなかなか、連年ばかりで離職させていけない現状はとても残念である。OBの先生方を相談でき活用していると以前お聞きしたことがあり、とても良い取組だと感じる。
●特別支援教育の充実	○全職員、全クラスがインクルーシブ教育を意識し実践する。 ○教室に入れない児童対応の体系化	○配慮、実践している教職員90%以上	・研修会、書籍などで研鑽を積み、日々の関わりに生かす。 ・個別的教育支援計画・個別の指導計画を有効的に活用する。 ・日常的に、個別の支援が必要な児童に関する情報を交換する。	B	・通常学級でも個別に特別支援教育が行われている。大規模な支援が必要な児童の自立活動の事例研修会を実施した。 ・90%以上の教職員、保護者が、個に応じた支援に対して肯定的な回答をしている。さらに見えてや手立って充実したものになるよう努力していく必要がある。	B	・先生方は個別対応にまぎりまぎでより努力されている。西九州大学等との協議もあり大努力されていると思います。 ・特別な支援を要する児童が年々増えているのは、仕事を通して実感する。障害をもつ子どもの事もっと社会全体で考え、成長していく中で社会の一員として自立が期待できると思われることに期待する。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目						
重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 (評価)	実施結果	評価
○コミュニティスクールの推進	○学校運営協議会の協議内容やコミュニティ活動の様子をコミュニティ便りやHPで職員や保護者、地域に知らせる。 ◎活動内容や活動方法を工夫しながらコミュニティの活性化を図る。	○地域活動への参加意識を昨年度よりも5%高める ◎すべての児童が9つのうち5つ以上のコミュニティと関わることができるようにする。	B	・赤松CSでどのような活動がされているか知っていると回答した保護者は、88%で中間結果より増加した。CSに対する理解はさらに進んだと思われる。 ・児童がCSや地域の行事に参加したと回答した児童は43%に留まっている。CSや地域に関わっていると実感させる取組の工夫も必要と思われる。	A	・地域活動に参加できるように、公民館、まちづくり協議会も支援した。赤松まちづくり協議会主催の行事があり、学生、保護者、地域の人々が参加して盛り上がりを見せている。 ・メンバーの高齢化、固定化が課題である。現在、現役のお母さん方も増え、徐々に若年化されており、交代の時期であると感じている。活動の活性化の観点にも、新しい参加者の勧誘を積極的に行っていくべき。 ・HPを速した呼びかけも評価したい。

5 総合評価・次年度への展望	・学校教育目標「ふるさと赤松を大切にする 夢をもった子どもの育成」今年度のスローガン「子ども真ん中」を、教師がたえず意識してそれぞれの教育活動にあたることができた。その成果が最終評価の結果にも表れていた。 ・いじめについては、今年度も「心のアンケート」や「ひたまりタイム」等を有効に活用し小さな芽を摘むよう努め、学年主任や管理職に報告・連絡・相談を徹底した。大きな事案に発展することもなかった。今後もいじめの早期発見・早期対応に努めるとともに、「心の教育」も充実させたい。 ・学力向上については、校内研究や学力向上研修会をとおして全職員が同じ意識をもち取り組むことができた。しかし、まだ旧態依然とした授業が散見され、目指している「教師の発言3割、児童の活動(発言を含む)7割」までには至っていない。次年度への課題である。 ・教職員の働き方改革の推進については、学年主任会等をおして学校運営の意思疎通を図り、行事や業務の目的を明確にして業務一つ一つについて検討を行った。質の向上と業務改善、両方を目指してきた。職員のタイムマネジメントへの意識も高まってきた。次年度は時間外在校時間の上限(月45時間、年360時間)を厳守したい。 ・コミュニティスクールの推進については、学校運営協議会、まちづくり協議会、公民館等、協働体制が整っている。今後は、さらに学校でも地域人材を活用した授業を取り入れるとともに、公民館地域行事への参加を児童に促したい。
----------------	--